

化粧品会社の研究員になって ～成長し続ける自分でありたい～

古屋理香子（資生堂リサーチセンター）

仕事の内容とやりがい

これまで一貫して生物系の仕事に携わってることができました。美白と呼ばれるしみに関する分野が長いのですが、しみや色素細胞に関する基礎的研究から、有効成分の評価系構築・探索・導入の開発研究までをうろうろしています。抗老化や肌荒れに関与していたこともあります。皮膚科学研究は近年さまざま進化発展し、その時期に携われたことはとても幸せです。

医薬品とは異なる、医薬部外品・化粧品というジャンルで、疾病ではなく“健常”の皮膚を対象に、化粧品会社ならではの切り口で研究をすることに醍醐味を感じています。

進路決定のきっかけ

生物は大好きでしたが、文学や法律にも惹かれ、進路はかなり迷いました。ただ、企業の研究者だった父の背中を見て育ち、いつのまにか、研究は面白そうだと刷り込まれていたようです。生物に進んでからは、実験も大好きで、一直線で今に至っています。実験は泥臭い部分も多いけれど、得られた結果が予測と一致したときや、新しい展開を示せたときのワクワク感、充足感は一度味わうと止められません。一方で、どんな道を選んでも、きっと面白いとも思っています。

仕事と生活のバランス

昔から猪突猛進型というか、バランスを取るのが下手です。そのため随分、無駄や過度の負担があったと自覚しています。早くからもっと賢かったら違う展開が出来たと思いますが、それも自分だと受け止め、そういう時期があったからこそ、昔より少しは賢くなった今の自分がいると思うことにしています（進歩遅すぎ!?). 母は専業主婦でしたのでその感覚や価値観が沁み込んでおり、割り切りや効率化の自覚をなかなか持てず、結局パートナーに教えられ、助けられた部分が大きいです。

そんな中、子育ては1人目にはこちららも神経質で厳しく当たってしまったこともありましたが、3人になったら細かいことは気にしていられず、またそれぞれの個性も強く感じて、日々いい加減です。ただし、これだけはゆずれないことは決して曲げず、しっかり伝えることを心がけています。

進路選択に対してのメッセージ

本当に、どんな道を選んでも面白く、深められると思っています。

私が歩んでいる、企業（化粧品会社）の研究員は、成果が身近な製品に反映される機会に恵まれ、お客様の反応を直に感じる事が出来ます。業とは異なる、化粧品・医薬部外品独自の観点で、人生を豊かにすることに貢献できる喜びがあります。実際は実験を組み立てては実施する、ひたすら泥臭い体力の要る仕事です。でも結果が出る、結果が意味することを考察し、次を考える、このサイクルに成果が形（製品）となって現れ、さらに喜んでくださるお客さまの声が聞こえたら…また頑張りたくなります。他人より大分遅く、まだまだ発展途上の私ですが、一生成長し続けていきたいと思っています。



< 古屋理香子（ふるやりかこ）プロフィール >

- 1984 日本女子大学附属高等学校卒業
- 日本女子大学 家政学部家政理学科II部入学（現 理学部物質生物科学科）
- 1988 株式会社資生堂入社 基礎科学研究所生物科学研究部配属
- 1994 結婚
- 1998 第1子出産（育児休業8カ月）
- 2003 第2・3子出産（育児休業5カ月）
- 2009 千葉大学にて学位（理学博士）取得